

稲作情報 No. 9 (コシヒカリ)

平成28年9月7日
南魚沼地域農業振興協議会
南魚沼農業普及指導センター

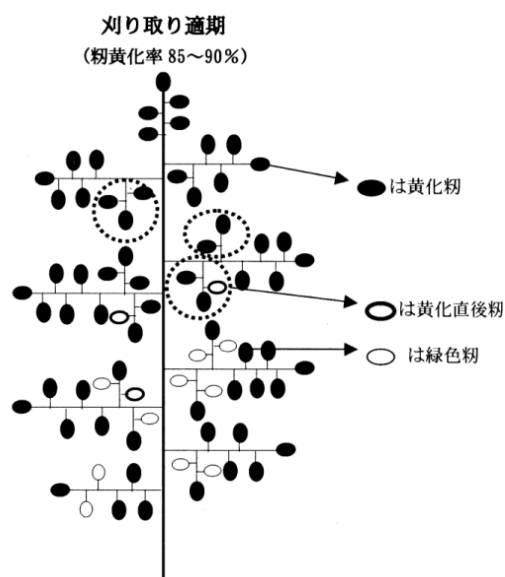
○刈取り適期は高温傾向のため早まっています。
○籾の黄化程度をよく確認して適期に収穫しましょう。
○胴割れ防止のため、登熟が進んだほ場は早めに刈りましょう。

今年は、生育期の高温により出穂が早まり、刈取り適期も早まっています。コシヒカリは積算温度1000℃をめやすに適期収穫を行いましょう。

また、刈取り間近の高温やフェーン等の場合は、立毛胴割れの発生が懸念されるので、収穫を早めましょう。

1 適期収穫

- (1) 収穫適期は、黄化した籾の割合が85～90%になった頃です。
- (2) 籾の黄化程度をよく観察し、適期を逃さず収穫しましょう。



図中の点線内（上位3～4本目の1次枝梗に着生する2次枝梗籾）が黄化した穂が、全体の8割程度になると刈取適期

注) 積算気温のみを収穫適期の判定基準とすると、青未熟の多発生、胴割粒の発生につながる場合があるため、必ず籾の黄化程度を併用して収穫期を決めましょう。

・出穂期以降、葉色の低下が早かったほ場では、籾の黄化が早いため収穫適期が早まり、基部未熟粒や立毛胴割れが発生しやすくなります。刈り遅れに注意しましょう。

〔表1〕地域別出穂期ごとの収穫期予想(9月4日現在)

地域	出穂期	収穫期のめやす
南魚沼市	8月1日	9月9日
	8月5日	9月14日
	8月10日	9月20日
湯沢町	8月6日	9月17日
	8月10日	9月23日
	8月15日	9月30日

- ・出穂期以降の平均気温を積算し1000℃に達した日、9月5日以降は平年値を使用。
- ・南魚沼市の気象データは城内開発センター、湯沢町はアメダスを使用。

3 適正な乾燥

(1) 高水分粃の変質防止および水分ムラ解消

高水分の粃は変質しやすいので、収穫後は迅速に乾燥機に張り込み、通風しましょう。また、高水分の粃は水分のばらつきが大きいので、通風循環や2段乾燥などで水分ムラを解消した後、適正水分まで再乾燥しましょう。

(2) 食味を損なわないよう粃水分に合わせた乾燥

乾燥機の送風温度が高いほど食味が低下し、その程度は張り込んだ際の粃水分が高いほど大きくなります。初期水分が24%以下の場合は50℃以下で、24%より高い場合は40℃以下で乾燥しましょう。

(3) 胴割れ防止のための適切な乾燥速度

登熟期間の高温傾向により胴割れ粒の発生が懸念されます。高温の中で収穫した場合は、毎時乾燥速度が0.5%以下になるように送風温度を低く設定しましょう。

4 粃すり作業

(1) 粃すりは肌ずれ防止のため、粃温度が常温近くまで下がってから行いましょう。

(2) ゴムロール間隔は0.8～1.2mmを基準とし、脱ぶ率が80～90%になるよう調節しましょう。この範囲から外れると、肌ずれや碎米が多くなったり、粃混入が多くなったりします。

(3) ゴムロールの片減りやむら減りに注意しましょう。

5 玄米の選別

(1) 粒厚のうすい玄米は品質が悪いため、ふるい目は1.85mm以上を用いましょう。

(2) 未熟粒や被害粒が多い場合は1.9mmのふるい目を使用し、色彩選別機を活用して1等米に仕上げましょう。

(3) 米選機の能力に応じた適正な流量で、丁寧な作業を行いましょう。

【問い合わせ先】 南魚沼地域振興局農林振興部普及課（作物担当）
電話 772-3337 FAX 772-2612